



2024 AUTOBACS SUPER GT
Round 4 FUJI GT 350km RACE

AUGUST. 3-4 Qualify : 4th / Race : 4th

苦境から見事なりカバリー。4位入賞で大きなポイントを得る



D'station Racingにとって初めてのポールポジション、そして独走での初優勝と、歓喜に沸いた第3戦鈴鹿から約2ヶ月。2024年のSUPER GTは第4戦を迎えた。舞台はふたたびチームの地元でもある富士スピードウェイに戻った。

ゴールデンウィークの第2戦とは異なり、レース距離が350kmとなりピットインが1回になっていること、そして何より気温が異なる。そんな一戦に向け、チームはインターバルの間スポーツランドSUGOで行われたテストをこなし、準備を整え8月3日(土)の予選日に臨んだ。

20,600人というファンを迎えた予選日は、午前9時から公式練習が行われた。雲があるが、気温29度/路面温度38度というコンディション。暑さとの戦いも重要となった。

そんな公式練習では、まずは藤井誠暢がステアリングを握りコースイン。7周を走りD'station Vantage GT3の確認を行い、ファグに交代。ファグは途中、ピットアウト～インを行いながらロングランもこなしていったが、藤井、ファグともフィーリングは良くない。セッション終了間際に1分39秒411というタイムを記録するも、順位は23番手。タイムも伸びず、第3戦での速さがなくなってしまっていた。またストレートスピードも伸びない。富士のレイアウト上、決勝でもこ

の直線スピードでは戦えない。チームには暗雲が立ちこめた。

しかし、このままでは予選でも苦しいだけになってしまう。D'station Racingは藤井の経験、田中哲也スーパーバイザーの経験、そしてエンジニアの知見を結集し、予選で使用するタイヤの変更、またセットアップの改良に取り組んだ。

その作業を経て、午後2時48分から行われた公式予選Q1のA組に出走したのは藤井。気温33度/路面温度54度という暑さのなか、改良されたセットアップに好感触を感じ取ると、アタッククラップでは他車のスリップストリームを有効に活用。1分38秒106でトップタイムを記録し、Q2のアップパーグループ進出を果たした。公式練習の不調が嘘のようなリカバリーだ。

Q2でもファグが好アタック。1分38秒101というタイムを記録し、合算タイムで4番手に。2列目グリッドを獲得してみせた。

明けた8月4日(日)の決勝日。31,600人という観衆を集め、気温35度/路面温度56度というコンディションのもと午後2時30分から決勝レースを迎えた。後半で使用する予定のタイヤに難しさがあったことから、田中スーパーバイザーはファグをスタートドライバーに据え、後半を藤井に託す作戦を採った。

ファグはスタートから4番手につけ戦っていくが、上位3台が速い。後方から脅かされるわけでもないが、なかなか前が追いきれないジリジリとした展開が続いた。

チームは35周を終えファグをピットに戻すと、藤井に交代する。後半スティントで履いていたタイヤは、公式練習で不調だったものと同じだったが、路面にラバーが乗ったこと、セットアップの改良で十分なポテンシャルを発揮した。

コースに戻った藤井の前には、タイヤ無交換作戦や二輪交換を行ったライバルたちがいたが、39周目には2台抜きを披露。さらに4番手だった#88ランボルギーニとの差を詰めると、62周目にこれをパス。D'station Vantage GT3の速さとタイヤの強みをしっかりと活かした藤井らしいベテランの技で順位を上げていった。

そして藤井は最後は4位でチェッカー。予選順位と同じだが、強豪ひしめく中で力強いレースをみせたことで、D'station Racingは得点とともに大きな自信を得た。

これでランキングも4位につけたが、一方でサクセスウエイトも大きい。次戦はふたたび鈴鹿サーキットに戻るようになるが、第3戦のようにはいかないはず。しかし、それを跳ね返せるであろう力も示した第4戦となった。



COMMENTS :



Team Owner : Satoshi HOSHINO

自分は今回、パリオリンピックのフェンシング日本代表に帯同するためフランスにいましたが、ずっと富士スピードウェイの様子は気にしていました。予選日には公式練習で非常に苦しい状況になったと聞いていましたが、そこからチームが一丸となってセットアップの変更を行ってくれ、公式予選ではQ1でのトップタイム、そしてQ2で

の4番手とリカバリーを果たしたと連絡を聞き、ホッとしました。また決勝レースでもスタートからファグ選手が力強いレースを展開してくれましたし、藤井選手の素晴らしいオーバーテイクがあり、表彰台には届かなかったものの4位と、チーム力が上がっていることを実感しています。次戦の鈴鹿に繋げ、現地でまた喜ぶことを願っています。



Director : Kazuhiro SASAKI

第3戦では本当に素晴らしいレースを体験していたので、土曜の公式練習での不調は驚きました。また同時に、気温の変化であつという間に勢力図が変わってしまうレースの難しさを改めて感じましたね。しかしそんな中でも、藤井選手、ファグ選手、そしてエンジニアたちが予選に向けてセットアップ変更に取り組んでくれ、パフォーマンスを大

き上げることができました。決勝レースでもその速はしっかりと活かされていましたし、作戦が異なるライバルがいるなかで、チームもノーミスの戦いを展開してくれました。4位という結果は今回できるベストだったのではないのでしょうか。次回はまた鈴鹿でのレースなので、表彰台を目指して戦っていきたくと思っています。



Supervisor : Tetsuya TANAKA

僅差のGT300ではありますが、そのなかでタイヤ選択やセットアップがある程度勝負できる範囲のなかで戦うことができているので、公式練習の状況でも大きく調子を乱すことはないだろうと思っていました。もちろん、もっとうまくいけばいくでしょうし、いかなければ下位になってしまうかとも思いましたが、良い感じで進めてくれました

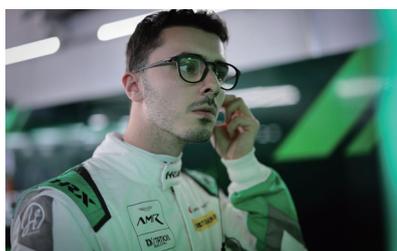
し、ドライバーもチームも頑張ってくれたと思います。またタイヤが素晴らしいパフォーマンスを発揮してくれましたね。次戦はまた鈴鹿でのレースにはなりますが、サクセスウエイトも違いますし、季節も異なります。第3戦のように簡単な展開にはならないと思いますが、チャンスもあると思っています。チーム一丸で頑張りたいですね。



Driver : Tomonobu FUJII

公式練習では苦しい週末になってしまうかと思いましたが、予選に向けてチームみんなで話し合ってセットアップやタイヤ選択を見直し、4番手につけることができたのが大きいですね。また今回、ファグ選手をスタートドライバーに据えたのも、後半のタイヤが難しくなる可能性から、田中スーパーバイザーが経験から素晴らしいアドバイスを

してくれたおかげです。ファグ選手も良い仕事をしてくれましたし、後半はブレーキングで良いオーバーテイクができたと思います。今回はしのご切った週末で、みんなの力、チーム力で獲れた4位だと思います。タイヤ、セットアップとも良いところにいますし、ウエイトは重いですが、鈴鹿は相性も良いので、また好結果を残したいです。



Driver : Charlie Fagg

この4位という結果には満足しているよ。もちろんもっと上位が望ましかったし、常に優勝を目指してはいるんだけど、それでもチャンピオン争いのなかで多くのポイントを獲得できたし、力強い結果を残すことができたと思う。またチームもミスがない仕事をしてくれたので、それがこのペースに繋がったと思うね。今回はスタートを担当したけ

れど、前の3台が速くて、正直自分にとってはついていくだけのレースになってしまった。でもクルマは良い感じで、後半の藤井サンが4位に戻るために素晴らしいオーバーテイクを何度もみせてくれた。鈴鹿は僕たちにとって強力なコースであることは分かっているし、また第3戦のような良い結果が残せるように願っているよ。

